



# バンコク便り



## 1.はじめに

新年あけましておめでとうございます。

昨年11月末にタイ王国駐日特命全権大使バンサーン・ブンナーク閣下ご一行をお招きし、弊社主催にて開催致しましたタイ投資セミナー及び歓迎レセプションは多数の皆様からご出席賜り、おかげさまで盛会のうちに終了することができましたことを御礼申し上げます。今回は本セミナーに関連した当地情報についてお伝えいたします。



セミナー（大使ご挨拶）



セミナー（会場全景）

## 2 当地ビジネス情報

タイのインフラ開発戦略について

タイ政府は2022年までに約1兆8000億バーツ（※約6兆3,000億円）の投資を行い、都市間鉄道や高速道路などのインフラ整備を計画しています。この投資は物流・輸送コストの低減とタイ経済の競争力向上を目的とするものであり、物資、人、物流、交通面いずれもハブになることが期待されています。具体的には公共交通機関の拡張、道路の拡張、海港・空港の収容能力増強等が挙げられます。注目されているタイ東部にある東部経済回廊（EEC）では、ラヨン県にあり軍民共用で使用されているウタパオ空港の拡張及びタイ中心部にあるスワンナプーム国際空港、ドンムアン空港を高速鉄道を結ぶ計画があります。他にもチョンブリー県にあるレムチャバン港でも拡張を行い、コンテナ取扱量世界トップ10入りを目指す方針です。タイ北部では閣議決定されれば、日本とタイが共同で進めているバンコクーチェンマイ間（全長約680km）の新幹線計画が2019年には着工予定で、いずれは3時間半での移動が可能となる見通しです。またバンコク中心部では高架鉄道（BTS）、地下鉄（MRT）の都市鉄道も新設及び延伸の予定であり、既に着工している場所もあります。このように、足下、タイではインフラ開発計画が目白押しであり、加えてアセアンの中心的な立地という地政学上の利点やビジネスを行いやすい国として東アジア・太平洋州で3位、世界26位のランキングなどアジア有数の投資先として今後更なる成長が期待されます。 ※1バーツ=3.5円にて算出

## 3. 現地トピックス

タイ・エネルギー省は、三輪タクシー「トゥクトゥク」を2022年迄全て電気自動車（EV）に切り替えると発表しました。

現在タイでは約20,000台以上が走っていますが、これらが全てEVになれば、年間20,000トンの石油消費量の削減につながると見込まれています。また、普通自動車については2036年までにEVを120万台普及させる方針を示しており、それに伴いEV向け充電スタンドの展開を発表する企業も増えてきています。こうしたEV化の流れの中、日系自動車メーカーでもEV中心の開発・販売路線で動くことを計画に盛り込む等、各社EVを推進する方針とのことです。EV化を推進する背景にはタイ政府が現在掲げる長期経済戦略、すなわち産業の高付加価値化、競争力強化を目的とした「タイランド4.0」があります。またタイ以外のASEAN各国でもEV化の動きが出てきており、電力インフラ整備等の課題もありますが、新たなビジネスの波は、当地域でも確実に広がりつつあります。



街中を走るトゥクトゥク